

高校時代から現在に至るまでの大雪との関わり

黒岳石室荷上げ、黒岳石室管理人、旧大雪営林署監視員アルバイト

層雲峡ロープウェイ勤務

1998年より「風の便り工房」代表

業務内容 昭文社「山と高原地図」/利尻、羅臼、斜里、阿寒/大雪、十勝

大雪山、高原温泉/ヒグマ情報センター管理、生態調査

山岳ガイド(北海道山岳ガイド協会会員)

登山地図作製にあたって

各山岳地域の調査の中で、山小屋、テント場、登山口などのトイレ、水、

周辺環境などの現状について

現状を踏まえて理想とのギャップをどう埋められるのか

理想は国立公園行政による環境整備

入園料/協力金、トイレ使用料

携帯トイレ

携帯トイレはギャップを埋める一つ的手段では...

各縦走ルート上での適当なポイント、テント場などに石積や環境にあわせた携帯
トイレ専用のブースが必要なのでは

配付、回収、運搬、処理などでの一部偏ったシステムの問題。

環境整備とオーバーユース

各山岳地区の2000年度の登山者数を見ると、環境整備が整えばオーバーユース

とは言えない程度の入山者数なのでは.....

さらにこの何年かは登山者数は減少の傾向にあります。

つまりオーバーユースという言葉で環境整備が追い付かない理由付けになっている
傾向が見られる。

2000年/道内の主な山域の登山者数(登山口の登山名簿記入者のみ)

羅臼岳	8,317名	硫黄山	690名
斜里岳	8,044名	雄阿寒	1,464名
雌阿寒	3,800名		295名
利尻岳	18,000名	雨竜沼	11,405名
ニセイカ	1,520名	浮島湿原	1,237名
ユニ石狩	856名	沼の原	1,460名
高原沼回	10,389名	緑岳	2,338名
白雲小屋	1,476名	テント	1,614名
赤岳	14,512名	黒岳	36,720名

(過去2年間位の登山者数)

マナーの低下

あえて登山者全体と言わせていただくと、マナーとルールの低下は否めない。

水場の使い方、ゴミの処理、山小屋内での宿泊スペースの占拠、テントの張り方
排便の場所など愕然とするものがある。